

The Japan Association of Radiological Technologists
ネットワーク・ナウ

Network Now

2018 No.508

4 / 1

JART情報
<http://www.jart.jp>

発行所 公益社団法人日本診療放射線技師会
〒105-6131 東京都港区浜松町2-4-1
世界貿易センタービル31階
TEL. 03-5405-3612 FAX. 03-5405-3613



平成29年度 第9回理事会 開催される



平成30年2月24日（土）、本会事務所で平成29年度第9回理事会が開催された。

冒頭の中澤会長のあいさつの後、議案について審議された。初めに、平成30年度事業計画案・事業予算案について執行部より提案があり、承認された。また平成30年度本会スローガンは「国民と共にチーム医療を推進しよう」に決定した。その後、諸規定改定、認定資格制度、および高齢会員会費減額に関して、61歳以上と65歳以上の年会費減額（7千円）が執行部より説明され、賛成多数で承認された。続いて第36回学術大会候補地として宮城県放射線技師会より立候補申請があり、審議の結果承認された。以下、本年度の永年勤続表彰者・功労表彰者、北村理事の辞職について、委員会構成の変更について、会誌目次案・Network Now台割案について、入退会者・除籍者・免除者について、資料が提出され承認された。



報告事項は、執行理事報告（中澤会長、佐野副会長、熊代副会長、小田理事）、会員動向報告、月次決算報告、診療放射線技師の業務範囲の拡大に伴う新たな業務の研修受講促進について、学術教育委員会報告、新生涯教育システム委員会報告、国際委員会報告、編集委員会報告、広報委員会報告、会員情報システム委員会報告、調査委員会報告などの委員会報告がされた。また本会の本年度事業でも重要とされている、業務拡大に伴う統一講習会の進捗について受講状況などが詳細に報告され、受講率向上のための取り組みについて検討された。さらに次年度の第34回下関学術大会の開催に関する進捗、分科会関係報告、地域理事報告、医療被ばく低減施設認定・更新報告について報告された。以上、多くの審議・報告事項に関して質疑・検討がなされ夕刻に閉会した。詳細な内容は、第9回理事会議事録（抄）を参照されたい。



ESRおよびEFRSとの会議が開催される!

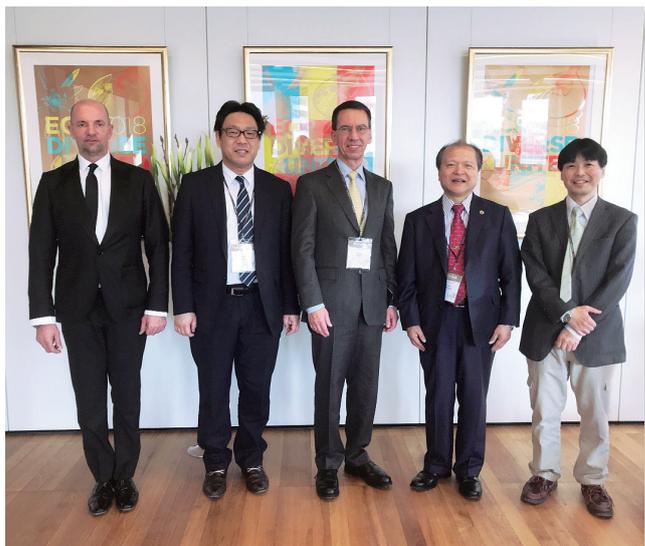
2018年2月28日(水)に中澤会長、児玉理事、富田理事の3人は、オーストリア ウィーンで開催されたECR(European Congress of Radiology) 2018の会場内会議室において、ESR(European Society of Radiology)のBernd Hamm会長およびEFRS(European Federation of Radiographer Societies)のJonathan McNulty会長と相次いで会議を行った。

ESRのBernd Hamm会長とは昨年4月に横浜で会談し、ECR2018への診療放射線技師の参加促進を依頼され、会誌でECR2018の開催とエントリーなどについて広報を行った。今回の会議では、ECR2018への日本の診療放射線技師の登録者数が126人と前年よりも約40%増加したこと、また日本の診療放射線技師の演題登録数も119演題と約20%増加したことが報告され、Bernd Hamm会長より感謝が述べられた。なお、日本の診療放射線技師の演題について、Scientific Paperについては14演題中11演題、EPOSについては105演題中87演題が採択され、診療放射線技師の国別採択

率ランキングでは第2位であった。

今後、ECRへの診療放射線技師のさらなる学会参加が期待され、その方策についても討議した。ESRと日本診療放射線技師会は互いに連携し、4月に開催されるJRCにおいても会合を開き、今後の協力について情報交換や意見交換を行う予定である。

また今年、新たにEFRSの会長に就任されたJonathan McNulty会長とは、日本とヨーロッパの診療放射線技師の教育制度について議論した。特に診療放射線技師の大学院教育、さらには博士課程について議論を行い、今後、JARTとEFRSが連携して教育の充実について議論していくこと、また定期的な会合を継続していくことで合意した。なお、EFRSは2008年に設立された団体で、現在、ヨーロッパ32カ国、38の学術団体、49の教育機関が加盟し、約10万人の診療放射線技師を代表しており、Håkon H. Hjemly前会長は第33回日本診療放射線技師学術大会(函館)において招聘講演を行っている。



ECR(European Congress of Radiology) 2018の会場内会議室においてESR(European Society of Radiology)のBernd Hamm会長(中央)と本会 中澤会長、児玉理事、富田理事



EFRS(European Federation of Radiographer Societies)のJonathan McNulty会長と本会 中澤会長

第70回 診療放射線技師国家試験 施行される

平成30年2月22日（木）、第70回診療放射線技師国家試験が診療放射線技師法第18条により施行された。試験地は、北海道、宮城県、東京都、愛知県、大阪府、広島県、香川県および福岡県であった。試験科目は、基礎医学大要、放射線生物学（放射線衛生学を含む）、放射線物理学、放射化学、医用工学、診療画像機器学、エックス線撮影技術学、診療画像検査学、画像工学、医用画像情報学、放射線計測学、核医学検査技術学、放射線治療技術学および放射線安全管理学で

あった。

合格発表は平成30年3月27日（火）午後2時に、厚生労働省および各地の診療放射線技師国家試験臨時事務所に掲示される。試験委員は、井上優介委員長、楫 靖副委員長、中村泰彦副委員長および21人の委員で構成されている。

当該試験問題の分析については、本会が提出する評価結果を参照されたい。

平成29年度 国家試験問題評価委員会 開催される

平成30年2月22日（木）に実施された第70回診療放射線技師国家試験の出題内容および解答の考査を目的として、2月25日（日）に国家試験問題評価委員会が本会会議室で開催された。

本委員会は、各分野で活躍している診療放射線技師11人の委員で構成され、出題された国家試験問題が、診療放射線技師法第17条で定める診療放射線技師として必要な知識および技能を評価するのに適正であるかどうか、さまざまな視点から議論し、職能団体の立場から評価報告の取りまとめを行っている。その後、本会から最終的な答申書として正式に厚生労働省医政局へ提出されるのである。

本年度の試験問題全体としての印象であるが、出題内容に偏りがなく、例年になく授業および臨床実習の成果を評価できる良問が多かった。しかし、受験者にとっては、前年度と比較してやや難易度が上がっていたようである。臨床現場からのニーズに即した出題傾向への変化に、受験者は戸惑いがあったと考える。各養成機関からの意見集約では、前年度に比べ合格率が下がるとの見解である。

本委員会では、これまで評価結果について臨床現場のニーズに即した設問を提言してきたが、今回、十分に反映されている設問が散見される。そして急速に発展する臨床現場で必要とされる知識・技能を問う問題が全科目から適切に出題されることが最も重要と考える。

本委員会が開催された当日は、国家試験の全問題を詳細に

検討し、議論を重ね、29年度の問題評価委員会を無事に閉会した。

去る3月7日（水）に、本会より答申書が厚生労働省所轄に提出された。本委員会における分析結果などについては、正式な発表を待って掲載する予定である。

（国家試験問題評価委員会 委員長 佐野幹夫）

国家試験問題評価委員会の委員構成

氏名	委員会	勤務先
佐野 幹夫	委員長	医療法人豊田会 刈谷豊田総合病院
西澤 徹	委員	日本医療科学大学
井戸 靖司	委員	社会医療法人厚生会 木沢記念病院
成田 浩人	委員	東京慈恵会医科大学附属病院
丸山 智之	委員	日本医科大学千葉北総病院
木暮 陽介	委員	順天堂大学医学部附属順天堂医院
腰塚 慎二	委員	埼玉県立がんセンター
加藤 京一	委員	昭和大学大学院保健医療学研究科
高嶋 優子	委員	東京都がん検診センター
岡部 圭吾	委員	昭和大学藤が丘病院
丹羽 政美	委員	JA岐阜厚生連 揖斐厚生病院

平成29年度 マネジメント研修会 開催される

平成30年1月27日(土)・28日(日)の2日間、今年も大阪コスモスクエア国際交流センターで本会主催のマネジメント研修会が開催された。

本研修会は、マネジャーおよびマネジメントに興味を持つ会員が全国から参加し、合宿形式で行う研修会である。昨年度から東京と大阪で2回開催し、ミドルマネジャーを対象とした日帰りコースとトップマネジャー対象の宿泊コースを選択可能にして、会員である受講者の皆さんがより参加しやすい研修会を目指してきた。今回の大阪研修会では参加者は33人(宿泊コース27人・日帰りコース6人)であった。

本研修会の目的は、各医療機関が進めている経営の効率化や能率化に対応できる人材、そして多職種連携が叫ばれている中で、指導的役割を担う診療放射線技師の育成を目指すとともに、同じ思考を持った受講者同志のネットワークづくりを目的としている。

本研修会は、本会主催で開催して7年が経過しており、近年では各都道府県の技師会でも医療情勢の厳しい状況を反映してか、マネジメント研修会が行われるようになった。本会主催で開催した当初の目的は達成した感はある。しかし、個人参加はもとより医療施設でのリピーターも多く、また本会が展開する新生涯教育システムのマネジメントラダーでは本研修会が軸となることが予想されるため、本研修会としては、医療経営の効率化に対応できる人材育成、経営に参画できる診療放射線技師の養成を目的とした階層別の育成研修に、さらなる充実を図ることが重要と考える。

大阪で開催されたマネジメント研修会の内容について、初日は、管理業務や医療経営のノウハウなど、日常のマネジメント業務に直結した内容が中心であり、基調講演では、中澤会長より「JARTの政策と課題について」を熱く語っていただいた。また診療報酬関連では、横浜市立大学附属病院 白



井技師長より「医療機器の適正人員配置について」と題し、診療報酬改定を視野に入れた施設基準や適正人員の考え方について分かりやすく説明を受けた。次に、特別講演①では、上尾中央総合病院 吉井統括部長より「放射線機器の減価償却について」と題し、成果計算の考え方をご説明いただいた。また参加型ワークショップでは、実践SWOT分析「現状を読み解き攻めの一手を考える」をテーマに、参加者がグループに分かれて課題解決に挑んだ。夕食後に自由参加のナイトセミナーが行われた。本研修会の恒例になりつつあるこのセミナーは、自由討論を目的に参加者が積極的に発言し、問題解決を図ろうと熱い議論が展開される。今回のテーマは「激変する医療情勢に対応できる診療放射線技師像」であった。参加者から、職場環境や階層別コミュニケーション、そして人材育成など、医療現場で直面しているさまざまな問題が取り上げられ、参加者全員で問題解決を図ろうと熱い議論が絶え間なく繰り広げられた。例年、ナイトセミナーは翌日を迎え終了するが、今年も予想通りの時を刻みナイトセミナーを終えた。

2日目の教育講演では、大阪府診療放射線技師会 牧島会長に「技師会活動を通じた人材マネジメント」と題して、コミュニケーションスキルの必要性を語っていただいた。そして特別講演②では、株式会社経営戦略室 宝徳 健氏に「リーダーの役割」をテーマに、リーダーとしての思考について語っていただいた。最後に、総合討論では役員や講師の先生方と交え最後まで活発な意見交換がなされ、本年度のマネジメント研修会の幕を閉じた。

(人材育成委員会マネジメント班 委員長 佐野幹夫)

第4回 被ばく線量適正化講習会 開催報告

平成30年2月17日(土)、大分三愛メディカルセンターにおいて標記講習会を開催し、22人のご参加を頂いた。本講習会は、診断参考レベルおよび医療被ばく低減施設認定の普及を目的に2年計画で開催しており、今回で通算7回目となった。初めに、委員会講演として「医療被ばく低減に向け



た診断参考レベルの活用と施設認定に関して」の講演が行われ、続く会員講演では、認定施設である熊本地域医療センター石橋謙吾氏より「医療被ばく低減施設認定取得の経験から」と題して、認定取得までの自施設での活動や工夫点などをご講演いただいた。最後の特別講演では、大分県立看護科学大学 環境保健学 准教授 小嶋光明先生より「診療放射線技師に必要な放射線生物の基礎」と題して、遺伝子を切り口に低線量被ばく影響の考え方について分かりやすく解説していただいた。

次年度からは形を変えて開催する予定である。

開催に当たり、ご支援を頂きました大分県放射線技師会江藤会長をはじめ役員の方々に、厚くお礼申し上げます。

(医療被ばく安全管理委員会 鈴木賢昭)

第14回 読影セミナー 開催される

平成30年1月28日(日)、名古屋掖済会病院救命センター4階講堂で第14回読影セミナーが開催された。

テーマである「急性腹症の診療と読影」に沿って、今回は腹部炎症性疾患・腸管閉塞性疾患・腹部動静脈閉塞性疾患、腹部結石の診断と治療、急性腹症のCT撮影と画像再構成、急性腹症の一般撮影と重要所見について講義が行われ、全国から多くの受講生にご参加いただいた。



「第14回 読影セミナー」に参加して

馬場 康行

名古屋掖済会病院 中央放射線部

参加者の声

平成30年1月28日(日)、名古屋掖済会病院救命センター4階講堂で開催された「読影セミナー」に参加しました。参加者は100人弱と多く、「急性腹症」をテーマにした本セミナーの関心の高さがうかがえました。かく言う私も救命救急の場で働く技師なので、急性期の疾患が多い救命の現場で、医師から何を求められているか学びたいと思い参加しました。

本セミナーでは、4人の医師(外科2人、消化器科2人)と2人の診療放射線技師が講義をされました。医師は、腹部のさまざまな疾患とその画像、そしてそこからどのように治

療を行っていくかを話され、技師は、一般撮影とCTの撮影法とそこから読み取れる画像所見を話されました。講師の話された内容はどれも分かりやすいと同時に救急の現場に直結したものでした。

今回のセミナーを受けて、腹部の疾患において診療放射線技師の提出する画像がいかに重要であるか、どのような画像・画像処理が求められているかなどを学ぶことができました。また必要な撮影法や画像についての知識も得られました。可能な限り速く、より有益な画像を提供し医師が確定診断を行えるように、これらの知識を生かしていきたいと思います。

最後に、今回のような有意義な講義をしていただいた講師の方々と、その運営に携わられた方々に感謝申し上げます。

平成29年度 近畿地域診療放射線技師会学術大会報告

平成30年2月11日(日・祝)、神戸大学医学部附属病院において平成29年度近畿地域診療放射線技師会学術大会が、大会テーマに「Next Move for The Future ~真の“チーム医療”をめざす~」を掲げ、総勢314人の参加を得て、盛大に開催された。

特別講演では、本会 中澤会長より「日本診療放射線技師会が進める政策と課題」として、柔道整復師法の一部を改正する法律案、統一講習会の推進、診療放射線技師学校養成所指定規則、平成30年度診療報酬改定要望案、診療放射線技師法の抜本的改正など重要項目5つについて、現在の取り組みの状況の詳細にお話いただいた。市民公開講座は、神戸市立医療センター中央市民病院 坂井信幸先生による最先端の脳血管内治療についての講演であった。

国際セッションでは、韓国 ソウル特別市放射線士会のメンバーから2題、近畿から2題の合計4演題あり、発表・質疑応答は全て英語で行われた。

シンポジウムでは「“撮る画像”から“読む画像”へ - チーム医療の一員としての責任 -」と題し、モダリティーごとに近畿地域の各府県技師会から現状の取り組みについて発表・ディスカッションが行われた。

またテーマ演題では、卒後・臨床教育、患者対応・検査説明、業務拡大に伴う現状と課題の3テーマについて、一般演



題は7演題の発表があり、活発な質疑応答が行われた。その中から、学術奨励賞は公立八鹿病院 村尾友和氏の「modified Dixon Quant法を用いたプロトン密度脂肪率測定におけるボクセルサイズの変化による影響」、近畿地域理事賞は済生会中和病院 北村未央氏の「乳房検査における患者心理と診療放射線技師の役割」が受賞した。

恒例となっている放射線・機器管理士分科会、女性活躍推進班(関西 collection)、読影分科会による企画も多くの参加があり、それぞれの取り組みへの関心の高さがうかがえた。

平成30年度は、大阪府診療放射線技師会の当番で平成31年2月に開催予定である。(近畿地域理事 清水 操)

放射線取扱主任者定期講習会 開催される

平成30年2月16日(金)、本会講義室で平成29年度第3回放射線取扱主任者定期講習会が開催され、21人が受講した。「放射性同位元素等による放射線障害の防止に関する法律」第36条の2第1項において、選任された放射線取扱主任者は、原子力規制委員会の登録を受けた登録定期講習機関が行う定期講習を3年に1度受講することが義務付けられている。本会は、平成17年に登録定期講習機関として登録し、今回で通算37回目の講習会開催となる。

今回の講習では「放射性同位元素等による放射線障害の防止に関する法律」の改正に関する内容を中心に、特に医療機関における対応のポイントについての講義となっていた。改正内容には、各事業所で定める放射線障害予防規程の変更や、盗難・盗取に対するセキュリティーが新たに規定されるなど、

選任放射線取扱主任者には新たな対応が求められているため、受講者は熱心に講義に耳を傾けていた。

この定期講習会は、本年度も6月・10月・2月に開催する予定である。



公益社団法人 神奈川県放射線技師会 創立70周年記念大会を終えて

公益社団法人 神奈川県放射線技師会 副会長
大会実行委員長 田島 隆人

神奈川県放射線技師会(以下、本会)は昭和22年(1947年)8月12日に、出席者23人により神奈川県放射線技師会結成大会が開催され、創設された。創設から70年の月日を経た平成30年2月4日(日)、「公益社団法人神奈川県放射線技師会 創立70周年記念大会」と題して、記念学術大会・記念式典をワークピア横浜、祝賀会をホテルニューグランドにおいて執り行い、70年の歴史の中



で育まれてきた伝統を重んじつつ、多様化する医療需要・社会的要請に対応できる組織づくりの新たな出発を誓い、記念大会は成功裏に終わった。

【記念学術大会】大会テーマを「未来へつなぐ放射線医療～信頼と技術～」とし、ワークピア横浜において、記念式典前に一般演題45演題・フレッシュセミナー2セッション・教育講演4セッション・医療被ばくセミナー・技術支援セミナーとしてJPTECミニコースを6会場で開催した。県内外から参加登録者数323人(学生8人を含む)もの多くの参加者を集め、活発な意見交換・情報共有を行った。

また市民イベントとして、乳房の触診体験、ワークステーションを使用したの画像処理体験、子供の白衣体験などを行い、県民・市民にわれわれの職業の理解に向けたアピールを行った。市民公開講座として、元横浜高校硬式野球部監督 渡辺元智先生をお招きした「球児と共に歩んだ半世紀～心と身体を言葉で鍛える～」では、コミュニケーションの重要性と時代に合ったコミュニケーションツールの活用、そしていつの時代も“愛情”を持つての指導でなくてはならないことをご講演いただき、聴講した多くの県民や参加者は感銘を受けていた。

【記念式典】本会 江川理事、鬼頭委員の司会の下、大内会長による式辞の後、表彰式に移り、午前で開催された記念学術大会の学術奨励賞3人、大会長賞1人の表彰が行われた。続いて会長表彰として、平成19年より本会役員として貢献された19人の方へ特別功労賞、県内各地域の技師会および公益社団法人日本診療放射線技師会で活躍された17人に功労賞、県



内各地域の技師会および各研究会で活躍された18人、また本会主催の講習会やセミナー・研究会などに対し、多大なご協力を頂いた賛助会員7社に感謝状が授与された。



表彰の後、来賓の祝辞として、神奈川県保健人材課 浅場課長より県の医療体制の整備について、日本診療放射線技師会 中澤会長より技師会のさらなる発展について述べられた。その後、ご臨席いただいた神奈川県保健福祉局技監(兼)保健医療部 中澤部長ほか14人の来賓者の紹介、祝電披露・特別講演へと進んだ。

特別講演では、神奈川県保健福祉局技監(兼)保健医療部 中澤部長による「神奈川県の医療提供体制～2025年を見すえて～」の講演が行われ、現在、神奈川県で進行している医療体制や今後の方針について話された。われわれを含めた医療団体にとって今後の指針となる内容であり、“県民医療への貢献”を掲げる本会にとっては大変参考となるご講演であった。特別講演後、閉会の辞を田島副会長が述べ、創立70周年記念式典は滞りなく執り行われた。

【祝賀会】祝賀会会場は、記念学術大会・記念式典会場から歩いて5分ほどのホテルニューグランドで執り行った。ホテルニューグランドは、開業1927年の歴史と文化の町、横浜を見続けてきたホテルであり、70周年祝賀会にとっても適した会場であった。また祝賀会は時節柄、平成30年新春情報交換会も兼ねており、216人も多くの関係者が集う会となった。

来賓祝辞として、横浜市病院協会 蜂谷副会長、日本診療放射線技師会 中澤会長、神奈川県医療専門職連合会 小林会長とお言葉を頂き、本会 高橋前会長の乾杯により盛大に始まった。乾杯後も来賓祝辞は日本診療放射線技師会 篠原南関東地域理事、本会 早瀬第16代会長、神奈川放射線友の会 長谷川会長と続き、叙勲などの表彰者紹介・来賓者紹介、本会 歴代会長6人の紹介では、一人一人祝辞を述べ、会を盛り上げた。

賛助会員の紹介後、現役員紹介で会が最高の盛り上がりを見せた後、佐藤副会長の閉会のあいさつとなった。

大会全体を通して、お祝いムードとともに今後への期待感が込められた大会となり、80周年、90周年、100周年へと継続・発展を誓い大会を閉会した。



INFORMATION

第7回

第34回日本診療放射線技師学術大会

山口への道 下関ってこんなところ!

実行委員 小田真一郎

(山口県診療放射線技師会 会誌広報担当常任理事)

九州へ渡る

偶然にも、この原稿を書いている真最中の3月9日に、関門国道トンネル運用開始(昭和33年)60周年を迎えました。ということで、今回は九州への連絡口としての下関の紹介です。

本州と九州が陸路でつながったのは関門鉄道トンネルが最初で、太平洋戦争中の昭和17年に単線で完成(現在の下り線)、2年後の昭和19年には上り線が完成します。そして昭和48年に関門橋(高速道路)、昭和50年に新幹線が通る新関門トンネルの運用が開始されます。国道トンネルを加えた主要4ルート以外では、彦島の南西端、彦島の南風泊漁港の近くから小倉までの関門フェリーが運航されていました(所要時間は13分)。しかし、残念ながら2011年から運航休止となり、現在、船で九州に渡れるのは、唐戸から門司港までの旅客船(約5分)のみです。

明治34年、山陽本線が馬関駅* (現下関駅) まで延伸した際、下関駅と門司駅を結ぶ関門航路が開設されます。当時は、現下関駅の北から線路が東に向かって大きくカーブ、そして全国大会会場の海峡メッセ付近が馬関駅で、その東が門司への連絡船の乗り場となっていました(海峡メッセ前にはその記念碑があります)。しかし、年間800万人以上の乗り換えと、別航路での貨車航送の煩雑さにより、新たな交通のインフラ整備が必要になりました。そこで青函連絡船のように列車ごと車両航送を行うか、もしくは橋を架けようという案もありました。ところが、天候不良の際は航行不能になる、通行する船舶が多く潮流も速い、軍事上の有利さ、コストなどの理由から、最終的にトンネルが選択されました。ただし、鉄道はトンネルの勾配に限度があるので、水深が深く、幅が狭い早瀬の瀬戸でなく、比較的水深の浅い「大瀬戸」と呼ばれる現在のルートを通っています。長さは上下線とも約3.6km、深さは海面下40m弱で、門司駅までは「山陽本線」ですが、関門トンネルを含む下関駅から門司駅まではJR九州の管轄となります。門司側出口を過ぎると、それまでの直流から交流へと移行するため、この間は交直流両用車両が使用されています。今は廃止となったブルートレイン運行時は、トンネル内の海水による車体の腐食を予防するため、オールステンレスの交直流両用電気機関車「EF30」や「EF81(300番台)」が下関-門司間を牽引していました。私事で恐縮ですが、鉄道好きの息子を連れて、最寄りの宇部駅から立ち席特急券で「富士」に乗り、下関駅で「富士」と「あさかぜ」の電気機関車の交換と列車の出発を見て帰ったことを思い出します。



「EF81 ステンレス電気機関車」



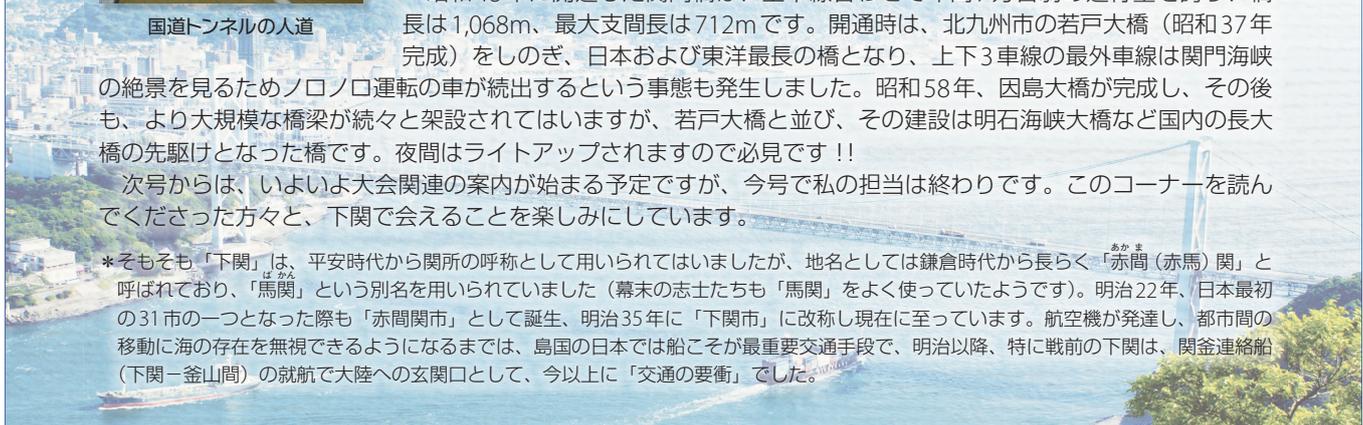
国道トンネルの人道

運用60周年の国道2号線トンネルは長さ約3.5km、関門橋のやや西側を通っており、2層構造の上段は車道、下段は人道となっています。このうち「人道」はトンネルの中間部分約780mで、車道を通行できない歩行者・自転車・原付が利用でき、エレベーターでトンネルの面まで降りた後、徒歩約15分で関門海峡の海底を通り抜けることができます。利用料金は、徒歩は無料、軽車両は20円と安価になっています。また下関側の入り口は2月号で紹介した「みもすそ川公園」のすぐそばで、もしかするとトンネルから「浪の下の都」が見えるかも…。

昭和48年に開通した関門橋は、上下線合わせて年間7万台弱の通行量を誇り、橋長は1,068m、最大支間長は712mです。開通時は、北九州市の若戸大橋(昭和37年完成)をしのぎ、日本および東洋最長の橋となり、上下3車線の最外車線は関門海峡の絶景を見るためノロノロ運転の車が续出するという事態も発生しました。昭和58年、因島大橋が完成し、その後も、より大規模な橋梁が续々と架設されてはいますが、若戸大橋と並び、その建設は明石海峡大橋など国内の長大橋の先駆けとなった橋です。夜間はライトアップされますので必見です!!

次号からは、いよいよ大会関連の案内が始まる予定ですが、今号で私の担当は終わりです。このコーナーを読んでもくださった方々と、下関で会えることを楽しみにしています。

*そもそも「下関」は、平安時代から関所の呼称として用いられてはいましたが、地名としては鎌倉時代から長らく「赤間(赤馬)関」と呼ばれており、「馬関」という別名を用いられていました(幕末の志士たちが「馬関」をよく使っていたようです)。明治22年、日本最初の31市の一つとなった際も「赤間関市」として誕生、明治35年に「下関市」に改称し現在に至っています。航空機が発達し、都市間の移動に海が存在を無視できるようになるまでは、島国の日本では船こそが最重要交通手段で、明治以降、特に戦前の下関は、関釜連絡船(下関-釜山間)の就航で大陸への玄関口として、今以上に「交通の要衝」でした。



本会の動き

倫理委員会より

倫理委員会は、診療放射線技師の倫理に関わる案件を検討する委員会であり、現理事・元理事および大学教員で構成されている。

診療放射線技師倫理ガイドラインは、当初、倫理綱領として策定され、規定を経てガイドラインという名称になった。このガイドラインをベースに、他に必要な倫理に関わる規定やガイドラインの作成に関与している。

診療放射線技師倫理ガイドラインでは、目的・責務、法令の順守、防護の最適化、チーム医療・地域医療への貢献、インフォームドコンセント、個人情報^{けん}の保護、信頼の保持、自己研鑽^{さん}について簡潔に示されている。

昨年度は、ISRRTの倫理規程の和訳について取り組み、会員に紹介を行った。

ISRRT (International Society of Radiographers and Radiological Technologists) は「医療放射線技術の国際的

な連絡機関としての役割と、放射線医学における質の高い患者ケア、教育、研究の促進」により、世界中の医療イメージングと放射線療法^{せん}の提供と実践の基準を改善することを目的に結成された団体であり、日本診療放射線技師会も団体として登録している。ISRRT 倫理規程では「実際に起こり得るあらゆる状況を網羅するガイドラインを作成することは不可能である。診療放射線技師には、職業倫理ガイドラインに基づき日常の行動を決定するため、倫理的な論拠が必要である。倫理は全ての人に関わるものである」とある。世界に目を向けると多少の制度による違いはあるが、全世界共通として大変参考になった。

本年度は放射線被ばく相談員の倫理について助言を行った。

私たちは診療放射線技師として、日常の業務でのベースとなる職業倫理を知っておくことが重要になる。その一助となれるような委員会でありたいと思う。

(文責：橋本 薫)

春といえば…



“春はあけぼの。やうやう白くなりゆく山際、少し明かりて、紫だちたる雲の細くたなびきたる”

清少納言の枕草子の冒頭です。春、といわれると私は真っ先にこの枕草子の冒頭を思い出します。中学時代の国語教師が、枕草子冒頭の春から冬までを丸暗記するように言い、必死に覚えたのを思い出します。春は夜明けに心引かれる、ということなのですが、なぜ春は夜明けなのか全く理解できませんでした。春といえば桜・チューリップ・たけのこ・イチゴ・花見・入学式・卒業式などを想像するのが一般的ですが、なぜ夜明けなのか。枕草子では、季節と時間の風景描画を巧みに取り込み、冒頭から読者を引き込む手法なのです。

春といえば旅立ちの季節です。私の恩師が3月で大学を退職します。私に研究の仕方や学生の指導方法を教え、研究内容について議論し、一緒に酒を酌み交わし、学会発表で泣き笑いし、共に夢を語りました。師は卒業生が旅立つ際、イチローの名言をはなむけの言葉としています。

“確かな一歩の積み重ねでしか、遠くへは行けない。

小さいことを積み重ねることが、とんでもない所へ行くただ一つの道”

研究や教育はまさにこの言葉が当てはまります。研究や教育

は一歩一歩の積み重ねです。その積み重ねがなければ、成果を得ることができません。時間はかかりますが、実はそれが最も近道なのです。最近、企業や個人は短期的な成果を求めます。しかし、基礎がなければ成果は得られません。成果を求める人こそ、小さな積み重ねが重要なのです。

春といえば出会いの季節です。今年も多くの診療放射線技師が医療機関に勤め、多くの学生が診療放射線技師を目指します。新たな人生を迎える人に、師は次の言葉を掛けます。

“何かを始めるのは怖いことではない。怖いのは何も始めないことだ”

マイケル・ジョーダンの言葉です。ただ、与えられることを待つだけの人は成功をつかむことはできません。成功するためには、何事にも挑戦することが必要です。よく『日本診療放射線技師会は何をしてくれるのか?』と聞く人がいます。残念ながら考え方が間違っています。何かをしてもらうのではなく、あなたは何かをするのか、あなたは何かを始めるのか、あなたは何かができるのか。与えられた人生に面白さはありません。挑戦する人生に面白さがあるのです。

挑戦なくして成功なし。これからも挑戦が続きます。

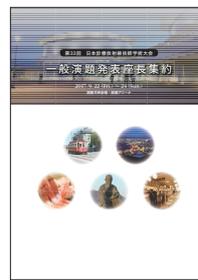
(文責：児玉直樹)

第33回日本診療放射線技師学術大会 一般演題 座長集約 ホームページ掲載のお知らせ

INFORMATION

平成29年9月に北海道で開催された、第33回日本診療放射線技師学術大会の「一般演題 座長集約」を、会員の閲覧用に本会ホームページに公開致しました。

閲覧には、お使いのウェブブラウザのURL欄に、以下のアドレスを入力いただき「33th_doc.pdf」ファイルをダウンロードしてください。ホームページ上にはダウンロードにつながるリンクボタンは設置しておりませんので、ご了承ください。



■ダウンロードURL：http://www.jart.jp/33th_doc.pdf

※座長の方から寄せられた集約のみの掲載となります。

4月・5月の講習会などスケジュールのご案内

INFORMATION

■ 業務拡大に伴う統一講習会：	埼玉①	4月21日(土)～22日(日)	青森	4月28日(土)～29日(日・祝)
	京都	4月28日(土)～29日(日・祝)	愛知	4月29日(日・祝)～30日(月・振休)
	埼玉②	5月12日(土)～13日(日)	静岡	5月12日(土)～13日(日)
	岐阜	5月26日(土)～27日(日)		

診療放射線技師のための フレッシューズセミナーのお知らせ

INFORMATION

プログラムは、エチケットマナー・医療安全・感染対策・気管支解剖・胸部撮影基礎(都道府県により違いあり)など、現場ですぐ役立つ知識です。会員・非会員を問いません。

日程と会場については変更される可能性がありますので、詳細は都道府県技師会までお問い合わせください。

■フレッシューズセミナー開催予定：

群馬	4月22日(日) 群馬県立県民健康科学大学 西棟1階 多目的ホール	福岡	5月12日(土) 会場(調整中)
東京①	5月13日(日) 会場(調整中)	秋田	5月19日(土) 会場(調整中)
茨城	5月20日(日) 会場(調整中)	徳島	5月20日(日) 会場(調整中)
鹿児島	5月26日(土)～27日(日) 会場(調整中)	栃木	5月27日(日) 会場(調整中)
千葉	6月3日(日) 会場(調整中)	岩手	6月10日(日) 会場(調整中)
埼玉	6月10日(日) 会場(調整中)	東京②	6月10日(日) 会場(調整中)
福島	6月11日(月) 会場(調整中)	北海道	6月16日(土) 会場(調整中)
青森	6月16日(土) 会場(調整中)	宮城	6月16日(土) 会場(調整中)
熊本	6月16日(土)～17日(日) 会場(調整中)	奈良	6月17日(日) 会場(調整中)
大阪	6月17日(日) 会場(調整中)	京都	7月1日(日) 会場(調整中)
和歌山	7月1日(日) 会場(調整中)	大分	7月7日(土) 会場(調整中)
宮崎	7月7日(土) 会場(調整中)	山口	7月8日(日) 会場(調整中)
佐賀	7月21日(土)～22日(日) 会場(調整中)	滋賀	7月22日(日) 会場(調整中)
香川	8月4日(土) 会場(調整中)	広島	8月25日(土) 会場(調整中)
神奈川	8月26日(日) 会場(調整中)		

事務所
案内

執務時間：月曜日から金曜日の午前9時30分より午後5時30分まで。

ただし、土曜、日曜、休日、祝日、創立記念日(7月13日)および年末年始(12月29日～1月3日)は執務致しません。